

他支部以上のハンディ

関西支部

——支部報告や支部ニュースではなく「支部だより」というからには、少しくだけた内容がよりふさわしかろう。それで、堅苦しい事業計画などは後回しにして、当支部の特色などにつき私見を交えながら述べてみることにする。
(加瀬滋男)

巷間伝えられているように、関西経済一般には実利優先の気風がみられないでもない。経営科学も実利にストレートに結びつかないと、往々にして相手にされないことがある。極端な場合、学界と産業界が乖離の度をいよいよ大きくしていく気配すら感じられる。

本来産学は互いにそれぞれの側面で特化しながらも、刺激し合う相互励起の状態になければならない。この点当地では、理想にほど遠いばかりか、むしろ相互不信を深めつつあるのではないかとの疑念を深くせざるをえない現状にある。

それだけに、当支部は他支部以上のハンディを背負っているともいえよう。もちろん支部会員がすべて、このような背景に対し拱手傍観しているわけではない。あらゆる機会をとらえては、産業人と切磋琢磨の実をあげようと日夜腐心している。あるいは、唯我独尊と阿諛追従を厳に自戒しつつ、旧弊の打破を志向している。

たしかに表面的には安穏な産業界や学界にまずは微細な核でも投げ入れ、世論の波紋を広げていくほかなかろうと思う。具体的にいえば、現下たとえ形ばかりでも産学交流の場を提供している学会が、その核となるべきであろう。さらには核融合にも似て、この際多数の関連・類似学会と協力し、巨人なエネルギーを放出させる大転換が切望される。

かくて当支部では、一昨年来日本経営工学会や関西経営情報科学協会などと共催の講演会を開き、隣接諸学会との協力を強力に進めてきた。仄聞するところによれば、本年2月22日東京で当学会・日本経営工学会・日本品質管理学会・日本人間工学会の各庶務理事がはじめて会同し、相互の学際的協力の道を探るための〈4学会連絡会〉を発足させた由である。同連絡会の今後の活発な展開を期待するとともに、東西相呼応して所期の目的達成に邁進したいものと念じている。

ところで昭和54年度の事業計画は、おおむねつぎのと

おりである。

1. 支部総会・記念講演会の開催

昭和54年4月13日 於：日本規格協会関西支部
「アメリカの大学の教育法」

真鍋龍太郎氏（神戸商大）

「鉄鋼生産管理システムとOR」

中川 勝氏（住友金属）

なお、本支部総会にて、

i) 昭和53年度事業報告書、決算承認の件

ii) 昭和54年度事業計画案、予算案承認の件

iii) 昭和54年度支部役員案承認の件

が審議され、原案どおり可決された。

2. 関西OR特別講演会(支部大会)の開催関連学協会

との共催を予定している。

3. OR研究講演会の開催(4回を予定)

担当主査：

青沼龍雄氏（神戸商大）

加瀬滋男氏（大阪府大）

中川 勝氏（住友金属）

西田俊夫氏（大阪大）

4. 研究部会の開催

ゲームの理論研究部会（継続）

担当主査：坂口 実氏（大阪大）

数理計画法研究部会（新規）

担当主査：末木俊秀氏（京都大）

詳細については、オペレーションズ・リサーチ誌5月号綴じ込みのOR学会だよりを参照されたい。

なお、昭和54・55年度の支部長は大阪府立大学加瀬滋男。事務局は、

〒591 堺市百舌鳥梅町4丁804

大阪府立大学工学部経営工学科

☎(0722)52-1161 (内線)2379

がそれぞれ担当することになった。